建築BIMの将来像と工程表　ロードマップ

国土交通省

1. BIMによる建築確認の環境整備

新築する建築物のほぼ全てが経る確認申請をBIMデータを用いて行うことができるようにすることで、申請・審査の効率化を図るとともに、共通化されたBIMデータやその伝達手法を社会に共有し、BIMの可能性を更に広げる。

BIMによる建築確認の環境整備	2023年度（R5）	2024年度（R6）	2025年度（R7）	2026年度（R8）	2027年度（R9）	2028年度以降（R10）
建築確認のオンライン化 電子申請受付システムの整備や、BIMデータから2D図面を出力するためのツール等を開発	電子申請受付システムの整備					
	確認申請図書作成ツール等の開発・普及（標準テンプレート等）		電子申請・BIMによる申請図書作成の普及			
確認申請用CDEの構築 BIMソフトウェアの種類によらず申請者・審査者がデータを共有・閲覧可能とするため、確認申請用IFCのルールを策定し、確認申請用IFCのビューアー機能等を有する確認申請用CDE※を整備 BIMデータから出力された2D図面(PDF)であることの確認により整合性審査を省略し効率化することを目指す	確認申請に必要な属性情報の整理					
	確認申請用IFCルールの策定（確認用書き出し/読み込みルール）		BIMソフト実装	確認申請用IFCの確認等		確認申請用CDE 機能追加（審査補助機能）
	確認申請用CDEの構築（ビューア、データ共有、IFCとPDFの整合確認機能等）		▼マニュアル策定（適宜 verUP）	BIM図面審査		
BIMデータ審査の検討 BIMデータ(IFC)の一部を審査対象として、2D図面の一部省略や審査補助機能による効率化を目指し、審査手法や制度措置等について検討	BIMデータ審査に必要な情報の整理		審査補助機能の検討（数値チェックの補助・審査箇所の自動表示等）			BIMデータ審査試行
	既存の法チェックツールの整理			制度の検討・改正（審査方法、明示事項、図書保存等）		

BIM図面審査
ルールに基づいたモデリング/書き出しにより作成されたIFCデータを確認申請用CDEで参照しながら、2D図面(PDF)の審査を行う。BIMデータから出力されたIFCデータと2D図面(PDF)の同一性の確認により、図面間の整合性審査を省略し効率化。

BIMデータ※審査
BIMデータ(IFC)の一部を審査対象とし、機能拡張したビューアによる各種数値計算や面積算定等の審査補助機能の活用により、審査業務を効率化。

※CDE(Common Data Environment)：共通データ環境

※BIMデータ：BIM モデルに加え、BIM 上での2D による加筆も含めた全体の情報をいう。